

参考様式第2号

調査研究活動記録票

会派名 自民クラブ

活動名	沖縄視察		使途 項目	・調査研究費 ・研修費
日程	令和元年7月15日(月曜)～令和元年7月17日(水曜)			
場所等	沖縄県 宮古島市、糸満市			
参加議員 人数・氏名	4人	伊東景治、中村裕一、小柳勇人、柳田守		
目的・ 内容・ 成果	目的 「ケーブルテレビ ケーブル敷設と民間委託について」 「戦後教育、デジタル技術を活用した記録保存について」			
	別紙参照			
	成果 別紙参照			

参考様式第2号

経費内訳

単位：円

整理 番号	月日	支出内容	金額
1-1-1	7/15	飛行機代(富山～羽田～宮古島)、宮古島宿泊	443,500円
1-1-2	7/15	土産代(視察先へ)	4,320円
1-1-3	7/16	宿泊(サザンビーチホテル)	53,200円
1-1-4	7/16	ガソリン代	457円
1-1-5	7/17	ガソリン代	1,000円
1-1-6	7/16	レンタカー代 宮古島	18,252円
1-1-7	7/16	レンタカー代 那覇	18,252円
	合計		538,981円 /

令和元年度東京視察報告

目的： IOT 技術の活用と CATV ケーブル網整備について
歴史教育と語り部など後継者育成について


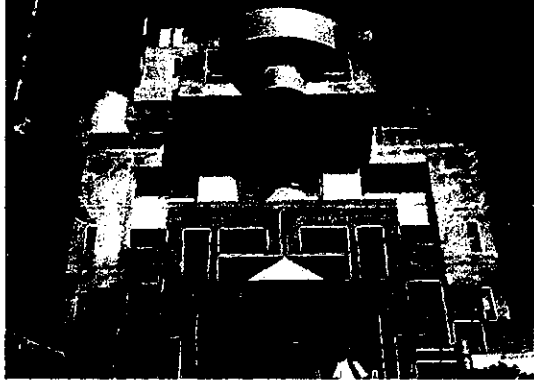


実施日： 令和元年 7 月 15 日から 17 日

参加者： 伊東景治、小柳勇人、中村裕一、柳田守

7 月 15 日 移動日 (黒部 ⇒ 沖縄県・宮古島)

7 月 16 日 宮古島市

時間	内容	詳細
09:30	宮古島市	宮古島市 情報政策課

宮古島市	
	
市役所にて	宮古島市役所
	
情報政策課	宮古テレビ
宮古島市では、企画制作部情報政策課の下地課長、松川、山崎の 3 氏と宮古テレビ (株) 取締役総務部長大窪氏から宮古島市における、CATV 事業とケーブル更新について説明を受けた。その後、黒部市における CATV 事業について説明し、意見	

交換を行った。

宮古島市では、毎年台風による整備被害があることなどから、市より宮古テレビに設備を無償譲渡し、その上で、宮古テレビが設備補修をする手法を採用していた。宮古島市の特徴としては、

- ・ケーブル網を民間企業（宮古テレビ）へ無償譲渡した
- ・放送センターなど譲渡をした場合にペナルティがある施設は所有を継続し貸借
- ・8k放送への対応は民間企業の判断に委ねた
- ・独自チャンネルの番組作成は、宮古テレビで継続

であった。全国的に公共財であるケーブル網を民間に無償譲渡した事例は少なく、黒部市において今後参考となることが多い説明であった。

成果

伊東

IT や情報技術の急速な進展の中で、宮古圏域における CATV 事業において、耐用年数等の制限や劣化や台風による故障（年間 20 百万円以上の修理費用）や超高速ブロードバンド環境の整備等の要因から、伝送路を同軸ケーブルから光ケーブルへの更新事業が計画的に進められている。

合併後の宮古島市は、宮古テレビ㈱との連携により映像配信事業とインターネットサービスが良好な共同事業として展開している。宮古テレビ㈱は S53 年より地域テレビ局として番組制作等の事業を行っており、ケーブル網を無償譲渡されることでブロードバンド化とインターネットサービスとの事業も同時に行えるようになったものである。

このような行政と民間企業の共同事業環境は容易にできるものではないが、新川 CATV 事業に活用すべきところを把握して、喫緊の課題を解決しなければならない。

小柳

沖縄県特に離島は、国のモデル地域として IT など先端技術を導入している。今回も先進地として期待して訪問した。宮古島市は、CATV においては、国の補助金を活用して開設し、その後、民間会社へ公共財を無償譲渡した。補助金返還にかかる物件などは所有権を残すも、公共としてはイニシャル、ランニングとも、コスト面では応分の責任範囲としていた。CATV においては、全面光ケーブルとなる FTTH 方式ではないが、宮古島市の実情にあった運営方法について知恵を絞り展開されていた。特に、民間の宮古テレビと市の情報政策課が連携しているところなど参考になることも多かった。今後については、日進月歩の IT 技術について行政としての関わり方が大きな課題だと改め感じた。

中村

公共がケーブルテレビの伝送路を所有している場合にどのようにしてケーブル網の更新等に

対応しているのか視察した。

宮古島の場合ケーブル網を民間企業（宮古テレビ）に無償譲渡した。8k 放送への対応は民間企業の判断に委ねた。独自チャンネルの番組作成は宮古テレビで継続。その背景は宮古テレビが民間企業として、民間放送の提供を行ってきたこと。土地柄により毎年台風によりケーブル網が損害を受けること。デジタルアンテナを自前で設置している家庭も台風が到来するとアンテナが機能しないこと等である。

黒部市を含む新川地域で 60 億円かけるケーブル網更新を行うか、どうか行った場合の費用返済（受益者負担）や 4k8k への対応。さらには携帯電話の革新等をしっかりと議論をして、この地域として最小の経費で最大の効果を生み出せるように進めるべきである。

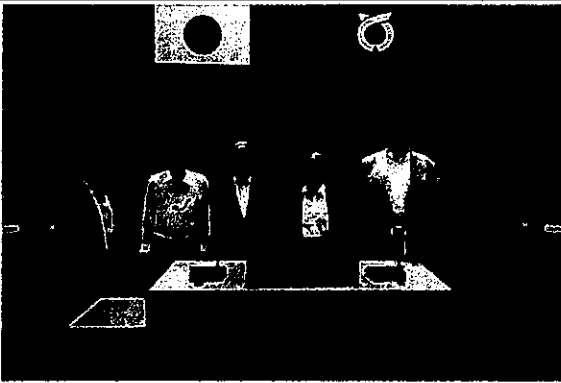
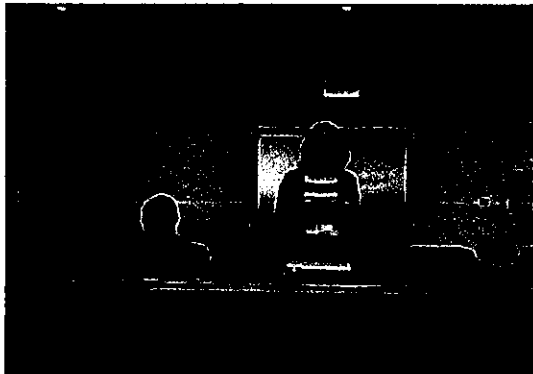
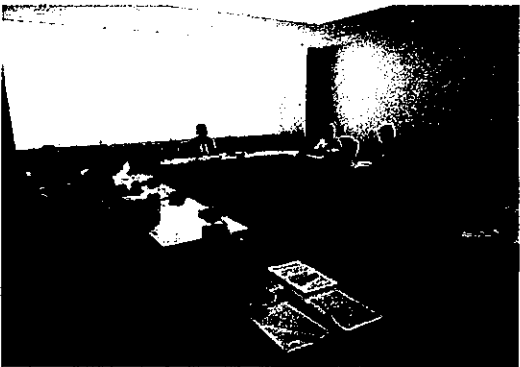

柳田

台風の通り道といわれ、毎年多大の台風被害がある宮古島市を視察した。宮古島市は、平成 17 年 10 月に当時の平良市、伊良部町、上野村、城辺町、下地町の 5 市町村による合併市で、人口は 52,000 人余りである。今回、宮古島市の CATV 事業とケーブル更新について説明を受けた。離島特有の事情（国による全面的な支援、恒常の台風被害等）から本地域の現状とは必ずしも一致するものではないが、本地域の今後の方向性について多いに参考となるものであった。

7月17日 糸満市

時間	内容	詳細
10:00	糸満市	糸満市役所 教育委員会

- ・企画開発部 秘書広報課 男女・平和・交流係（係長） 仲西 則子
- ・教育委員会 総務部 生涯学習課 課長（糸満市青少年センター所長） 加島由美子
- ・議会事務局 局長 平田 徳明（とくめい）
 // 主査 安次嶺（あじみね）文雄

糸満市	
	
糸満市 議場	説明員
	
レクチャー風景	平和祈念公園
<p>糸満市では、平和行政関連事業を視察した。浦添市は、沖縄戦終戦の地であったこと、糸満市平和祈念祭や生存者による語り部など戦中戦後の惨状を後世に引き継ぐ平和事業を行っていました。今回の「市民が語る戦中戦後史」映像記録事業は、語り部の方々の高齢化が進行していることから、生存中に記録に残す、教材や資料として活用することを目的としていた。また、語り部については、「糸満市平和ガイド育成研修」として、市内の中学生を対象に研修を行い、現在は100名程度が修了し、修了後も研鑽を続けていると伺った。視察の中で、数本のビデオを鑑賞したが、どれも語り部の方々が、当時のことを赤裸々に語っており、大変貴重な資料だと痛感させられた。また、撮影にあたっては、イデオロギーや思想</p>	

などが反映されないように、民間業者を活用し、史実を残すことに注力したと伺った。

伊東

第2次大戦後74年が過ぎ、北方領土問題と同様、日本で唯一本土決戦が行われた沖縄においても凄惨な戦争を体験した人は少なくなっている。特に糸満市は沖縄戦最後の激戦地であり、平和の礎、平和記念公園、ひめゆりの塔、ひめゆり平和記念館など戦争の教訓を次世代につなぐ資料や展示が多く点在している。

一方、戦争体験を自分の言葉で話し平和の大切さを伝える語り部は、直接的な平和活動であると言える。そこで糸満市では、歴史教育の一環として語り部の言葉を映像化すると同時に、戦争を知らない世代の後継者を育成する事業が企画開発部や教育委員会を中心に取組んでいる。

戦争体験を聞きだすことは容易ではないとのことであるが、地方テレビ局のノウハウ等協力をえながら映像化を進めたとのことである。学校教育や社会教育の中で地道に活動するほかないようである。

北方領土問題にもこのような取り組みを利用できると思うので、歴史教育や語り部の後継者育成に早急に取り組む必要があると思った。

小柳

1945年から74年が経過した。1978年産まれで戦後33年が経過して産まれている。現在、その当時の惨状を直接伝えることができる高齢者は年々少なくなっている。一方で、デジタル技術の発展により後世に残す方法は、上質かつ低廉な金額で可能となっている。今回の浦添市の訪問から、黒部においても、その当時の様子。特に北方領土からの返還に関する証言を後世に残す価値を強く感じた。また、平和行政については、戦争の惨状、戦争へ陥った背景など、史実に基づいたことを受け継ぐことが重要だと感じた。平和記念公園にて、富山県慰霊の塔に哀悼の意を示せたことも良い訪問となった。

中村

糸満市は沖縄戦終焉の地「いのりのまち」として平和啓発事業を展開し、戦争を体験しない世代へ平和の尊さと戦争の悲惨さを伝える。現在、戦争体験者の高齢化により語り継ぐことが難しい状況である。それで小中高生を対象に講和を聞き継承とともにボランティア研修等平和教育を実施している。

根室市に次いで元4島に在留していた人が多いのは富山県そして黒部市であり、市は根室市と連携しあい中学生の交流等が行われている。市には「北洋の館」として資料等の保存も図っているが、糸満市のように戦争終焉の地と違い市民の意識も薄く、語り部の継承等も模索の現状である。

柳田

前日の平和祈念公園及びひめゆりの塔記念資料館の視察に続き、糸満市役所を訪れた。糸満市では、高齢化によって戦争体験者が年々少なくなる中、体験者の記憶を後世に残していく一つの手段として小学6年生から中学3年生までを対象とし、概ね2年間をかけて「平和の語り部」を毎年20名程度育成する事業を実施されていた。また、戦争体験者の生の声を後世に伝えるべく、市内在住者の体験者の方々の映像化事業の拡大にも取り組んでおられた。

これらの取組を本市の北方領土返還運動の参考モデルにできないものかとの思いを持ちつつ、視察を終えた。

参考様式第2号

調査研究活動記録票

会派名 自民クラブ

活動名	東京視察	使途 項目	・調査研究費 ・研修費
日 程	令和元年11月30日(土曜) 令和元年12月1日(日曜)		
場 所 等	東京都 千代田区		
参加議員 人数・氏名	4人	伊東景治、中村裕一、小柳勇人、柳田守	
目的・ 内容・ 成果	目的 東大和市 図書館 シリウス 視察 千代田区スポーツセンター 視察		
	別紙参照		
	成果 別紙参照		

参考様式第2号

経費内訳

単位：円

整理 番号	月日	支 出 内 容	金 額
1-2-1	12月13日	交通費 黒部宇奈月温泉～東京 往復	79,150円
1-2-2	11月30日	宿泊費 東京 ホテル	50,520円
1-2-3	12月1日	移動費 タクシー代	2,300円
1-2-4	11月30日	交通費 東大和	2,730円
1-2-5	11月30日	土産代	4,720円
	合計		139,420円

令和元年度東京視察報告

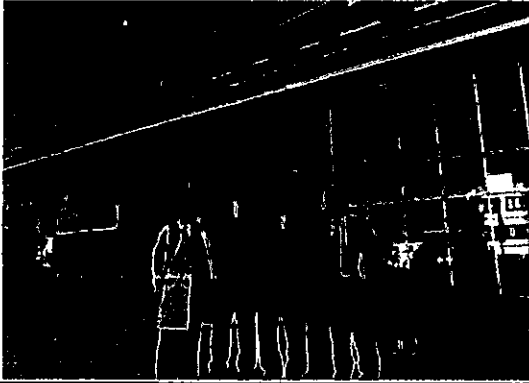



目的： 図書館先進地視察
 北方領土返還要求アピール行動への参加
 千代田区スポーツセンター（都市農村交流受入先との意見交換）

実施日： 令和元年11月30日～12月1日

参加者： 伊東景治、小柳勇人、中村裕一、柳田守

11月30日

時間	内容	詳細
13:30	大和市シリウス	大和市文化創造拠点 シリウス 視察

大和市 シリウス	
	
シリウス前	スタバ、飲み物可能
	
座席を最大化	生涯学習ゾーン
<p>シリウスは、1990年代から建設が開始された。当初は、「大和駅東側第四区」とう再開発計画の分譲マンション計画用地として2006年に都市計画区決定がなされた。しかし、2008年のリーマンショックによりとん挫。大和市として救済を含め</p>	

積極的に関与することとなった。当時の大和市に文化ホール新築の課題の活用策として、再開発事業の保留床を買い取り、建設することとした。建設費用は、全体で160億円、そのうち市が購入した部分は147億円、芸術文化ホール78億円、駐車場3億円、図書館44億円、生涯学習センター17億円、こども5億円と伺った。年間維持しとして、指定管理者「やまとみらい」へ7億9800万円、そのほか光熱費として共同管理費用1億円程度が費用である。

建物のコンセプトは、「個人の居場所づくり」として計画されていた。図書館の座席配置は、座席数をできるだけ多くとり、また目線が合わないように工夫されている。大木市長によると建設設計士と綿密な打ち合わせと修正を重ねたということだった。館内は非常に利用者が多く、9時開館であるが、8時くらいから並ぶ市民もいるようであった。建物内の施設には、有料ゾーンもあった。しかしながら、子育てゾーンにある、ボーネルンド監修の施設は、市場価格の1/10程度であり、人気の要因となっているようだった。

成果

伊東

大和市文化創造拠点「シリウス」を目のまえにしたとき、ネットでの情報からは想像をはるかに超えた大きな建物が立っていた。構成施設である「やまと芸術文化ホール」は、1階から6階までの高さのホールであり、客席数は1007席、「コラーレ」の大ホール以上のホールと、272席のサブ（多目的）ホールが隣接している。この大ホールの建設にあたり、関係者はコラーレのカーター・ホールを視察し参考にしたとのことである。1階には広いエントランスやギャラリーがあり、1階は芸術のイベント施設であった。2階から6階まで図書館を中心にいろいろな目的を持った施設が展開されている。図書館は2階から分類や用途に沿って図書が設置され、閲覧するスペースはいろいろと工夫が施されていた。百聞は一見に如かず。施設全体の規模は比較にならないが（仮称）「くろべ市民交流センター」に活かせる機能があった。平日にも関わらず、多くの人が思い思いに利用していた。

小柳

東大和市、横浜市から電車1本25分圏内であり東京都への通勤圏内。大都市型の図書館であるが、コンセプトである「居場所づくり」がよく理解できた。偶然、東大和市の市長とお会いすることができ、建設に至る経緯を伺うことができた。中高生の居場所づくりや、幼児の遊び場民間委託などいたるところにアイデアがあった。場所は都市開発の流れだが、建設に至る経緯については、しっかりと議論し市民のコンセンサスがあったと感じられる。とにかく、利用者が多く、また居住性が良いことがなによりの証左だと感じられた。

中村

大和市が文化創造の拠点として図書館、芸術文化ホール、生涯学習センター、屋内こども広場の機能を中心とした施設であり、市の計画中の市民交流センターのコンセプトも同様である。

大和市は、本市の6倍近くの人口であるが、利用者がとても多かった。また、障害者にも優しく、図書館に健康度見えるコーナーが設置され、測定後のアドバイスも受けられる。また、点字図書の配慮も見られた。

柳田

今回、(仮称)くろべ市民交流センターの設計及び運営等に生かすべく、「シリウス」を視察した。一番に感じたことは、利用者の多さである。土曜日の14時頃であったが、学生(大学生・高校生)の多さに目を見張った。ガラス張りの多目的ルームの多くが無料開放されており、(試験中なのか)数百人の学生で溢れていた。開架場所も機能的に設定されており、ホールを含めその利用頻度に驚かされた。また、大木大和市長に直接話を伺うことができ、館の規模、コンセプトにお聞きした。(過年、コラーレを視察し設計の参考材料としたと言われた。)

12月1日

時間	内容	詳細
09:15	千代田区 スポーツセンター	指定管理者である(株)ミズノの荒川立副館長と毎年行っている「黒部市都市農村交流」について意見交換
10:30	北方領土問題 返還要求行動	日比谷公会堂より鍛冶橋周辺までアピール行動

千代田区スポーツセンターと北方領土返還運動



千代田区スポーツセンターにて



日比谷公会堂 出発式

千代田区スポーツセンターは、(株)ミズノが指定管理を行っている。黒部市と千代田区の公民館事業である「くろべ自然体験村」の千代田区側の実務者は千代田区

スポーツセンターであり、榑ミズノの荒川副館長が責任者であった。今回は、千代田区の事業実態や、黒部市へのニーズなど直接お会いして意見交換することができた。荒川氏からは「千代田区では人気のある事業であり、リピーターの希望も多い。また、黒部市の参加者と一緒になにかを作り上げるプログラムや、日程的に余裕のあるスケジュールが良い」等の意見を伺った。

成果

伊東

黒部市が平成14年より実施している「くろべ自然体験村」事業の千代田区側の担当者と話をする機会をもった。訪問先は千代田区スポーツセンターでありこのセンターの指定管理を榑ミズノに委託していることを初めて知った。このセンターのあるビルは、スポーツセンター施設と生涯学習施設により構成され、体験村事業は生涯学習の一環として行われていた。長い交流の歴史の中で、今後も継続して行っていくための課題や要望などを聞くことができ、体験プログラムの改善に反映していきたいものである。

小柳

黒部市の「自然体験村」にボランティアとして参加しており、昨年と今年は会長も務めている。今回、千代田区の担当者から直接お話を伺い現状について整理がついた。黒部市の参加者が東京来訪する課題、全体スケジュールを余裕をもって臨機応変な対応が可能とする課題、子供だけでなく大人を含めた関係人口の強化を進める課題等について認識を深めることができた。

中村

千代田区の公民館事業として「黒部市都市農村交流」が行われており、その責任者の荒川副館長と意見交換をした。毎年行われる小学生千代田区30名、黒部市30名の交流事業で荒川氏は地区として人気のある事業で、リピーターの希望も多く、今後も日程その他検討し、実のある交流にしたいとの意見もあった。

柳田

2年前から、千代田区の都市農村交流事業の担当が、それまでの生涯学習担当課（実際は指定管理者・小学館集英社グループ）からスポーツセンター（指定管理者・ミズノグループ）に代わり、自然体験等を中心に交流事業を進めていた。4年生～6年生50人の募集で26千円の自己負担。倍率は約2倍とのこと。荒川氏によれば千代田区の参加者と比較して、地元黒部の子供の方がややひ弱に感じたとの言葉が印象的であった。（自ら志願し色々な体験を求める子と嫌々参加している子の差か？）

参考様式第2号

調査研究活動記録票

会派名 自民クラブ

活動名	東京視察	使途 項目	・調査研究費 ・研修費
日程	令和2年2月12日(水曜) 令和2年2月13日(木曜)		
場所等	東京都 千代田区、東京ビックサイト		
参加議員 人数・氏名	4人	伊東景治、中村裕一、小柳勇人、柳田守	
目的・ 内容・ 成果	目的 県選出国會議員への陳情 黒部市縁故の中央官庁関係者への陳情 東京ケアウィーク 2020 への視察		
	別紙参照		
	成果 別紙参照		

参考様式第2号

経費内訳

単位：円

整理 番号	月日	支出内容	金額
1-4-1	2月25日	交通費 黒部宇奈月温泉～東京 往復	78,750円
1-4-2	2月13日	宿泊費 東京 ホテル	50,800円
1-4-3	2月12日	移動費 タクシー代	5,080円
1-4-4	2月13日	移動費 タクシー代	3,120円
1-4-5	2月13日	交通費 ゆりかもめ	3,120円
1-4-6	2月14日	土産代 (視察先へ)	24,000円
	合計		164,870円 /

令和元年度2月東京視察報告

目的： 東京ケアウィークへの参加
富山県選出国會議員への陳情および次年度予算の説明
黒部市縁故の中央官庁職員への陳情

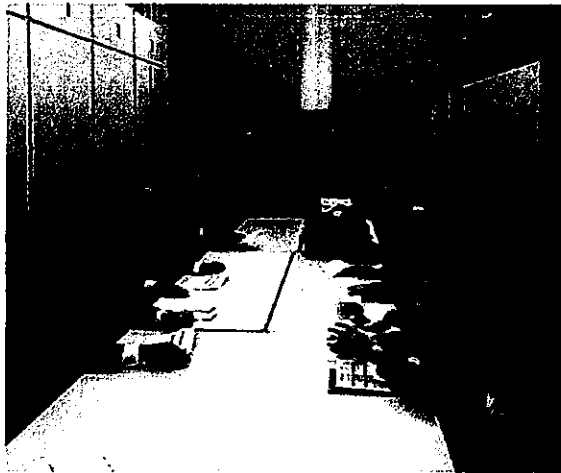
実施日： 令和2年2月12日～12月13日

参加者： 伊東景治、小柳勇人、中村裕一、柳田守

2月12日

時間	内容	詳細
13:00	国交省 陳情	総合政策局公共事業企画調整課統括調整官 藤田氏
14:00	財務省 陳情	財務省主計局 経済協力第二係主査 金作氏
15:00	農水省 陳情	農水省官房長 枝元氏
15:30	国会議員会館	宮腰衆議院議員、野上・堂故参議院議員へ陳情

陳情



財務省 金作主査



宮腰光寛事務所



農水省 枝元官房長

2月の国会予算審議時期にあわせ、県内選出国會議員や事務所関係者から次年度予算案の概要説明を受けた。制度内容の変更点や地方創生第二期の進む方向、富山県の諸課題などについて直接伺った。

また、黒部市に強いゆかりをもつ、中央官庁の職員にお会いし、黒部市の現況を説明するとともに、それぞれの部署で黒部市に関係する事業について陳情を行った。国交省管轄の黒部川河川事務所に関することについては、より専門的な事について現在の所長である竹下所長と連携を促して頂けることとなった。

成果

伊東

久しぶりに黒部市と所縁のある中央省庁の役人の方々と面会できた。農水省の枝元真徹官房長、国交省総合政策局の藤田士郎審議官、財務省主計局の金作志歩主査は、国会で新年度の予算審議の最中と言うことで多忙にもかかわらず、時間を割いていただき、短時間ではあったが、黒部の現況と課題要望等を話すことが出来た。黒部出身の内閣官房国土強靱化推進室参事官補佐の朝倉邦友氏には、毎回世話になり感謝申し上げる。

国会開催中であり、富山県選出の国會議員に直接面会できなかったが、秘書の方に挨拶と現況などを伝えることが出来た。

小柳

中央官庁の職員に直接お会いし様々な情報交換ができた。国交省では富山湾整備について、農水省では富山県出身の職員について有益な情報が得られた。国會議員への陳情では、次年度予算のポイントについて情報収集することができた。衆議院において、次年度予算案が審議中であり確定ではないが、この時期に情報収集できたことは良かったと感じた。

中村

朝、9時発のはくたかで東京へ行く。東京駅に着いてから、衆議員議員会館、参議院議員会館、国土交通省、農林水産省、財務省へ陳情に行く。

柳田

中央省庁の本市ゆかりの関係者と懇談した。中でも、本市元農業水産課係長の金作財務省主計局主査は、外務省OECD担当主計主査として数百億円の予算査定に携わり、国家的見地に立つ人材として活躍されていた。また、本市と農水省の人事交流の草分け的存在である枝元農水大臣官房長は、予算委員会開会中にも関わらず、空き時間にお会いでき久しく話を伺うことができた。一方、議員会館では各議員不在の中、各秘書と懇談した。特に野上事務所の野村政策秘書は、黒部市の特別

交付税の要望時期について県内他市の要望実施時期を示し、もう少し早い方が適切ではとの意見をいただき、その旨を能澤副市長に伝え、検討したいとされた。

2月13日

時間	内容	詳細
10:00	東京ケアウィーク	超高齢社会のまちづくり展、介護テクノロジー展等
10:00	セミナー	MONET が目指すモビリティイノベーションと自治体との取組 (講師: MONET COO 柴尾嘉秀 氏)
11:40	セミナー	Society5.0時代の地域医療のパラダイムシフト (講師: 京都大学特命教授 岩尾聡士 氏)
13:20	セミナー	多世代による協働・共生を実現してきた国内外の地域事例 (講師: 元東京大学副学長 西村幸夫氏)

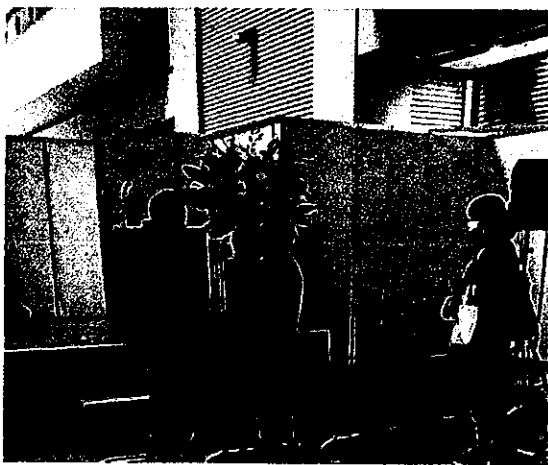
東京ケアウィーク



受付



入口にて



元東大副学長 西村講師



伊那市 取組事例ブース

東京、ビックサイトで開催された「東京ケアウィーク」。特に「超高齢社会のまちづくり展」を中心に視察を行った。また、その日開催されたセミナー3本を受講した。セミナーでは、地方自治体の取組事例紹介、先端技術を活用した移動訪問診療所などを学び触れ合うことができた。その他の展示についても、介護関連、

高齢社会関連などの先端技術や最新商品などの展示があり、見守りや食に関することは非常に参考となった。

成果

伊東

昨年続き、今年も東京ケアウィーク2020を視察することが出来た。このビッグサイトでのイベント及びセミナーは、年々盛況になっているようである。展示会の構成は、以下に示すように多岐にわたる健康、介護（医療）に関連する内容の展示である。高齢化社会の日本においてさらに活気が出る分野ではなかろうか。

●CareTEX2020(ケアテックス)

第6回 [国際]介護用品展／介護施設産業展／介護施設ソリューション展

●第3回 [次世代]介護テクノロジー展

●第3回 健康長寿産業展（ヘルスケア JAPAN）

●第3回 超高齢社会のまちづくり展

●第1回 在宅医療 総合展

●第1回 健康施術産業展（からだケア EXPO）

展示と同時に開催される3つの専門セミナー（セッション）を受講した。

高齢化社会において健康長寿、健康増進を目指した取組みに置いて、モビリティ（移動）は重要なテーマであると思い、セッションNo.24 MONET代取副社長兼CEO 柴尾嘉秀氏の「MONETが目指すモビリティ・イノベーションと自治体の取組み」を聴講した。移動市役所、移動スーパー、移動医療車等、モビリティ技術がキー要素の1つである。移動の新たな概念としてMaas（Mobility as a service）が提案されている。医療Maasは、通院が難しい地域や病状的に無理な人などへのサービスを行う手段として、伊那市ではMONET-Phillipsと共同でオンライン診療と連携した移動診察車などの実証実験に取り組んでいる（伊那モバイルクリニック）。将来的には、医療・看護・介護連携Maasのより地域包括ケアに貢献すると提案された。行政・地域・民間の共同事業として展望が開けるだろうと思った。

セッションNo.29京大特命教授 岩尾 聡士氏の「Society5.0時代の地域医療のパラダイムシフト」の講演も非常に興味ある内容であった。先端技術が社会生活のあらゆる分野に取り入れることで、経済分野はもちろん、医療・介護分野に提供されることが期待される。

医師である岩尾教授が提案する「DR. IWAOモデルによる地域医療のパラダイムシフト」は興味のある試みだと思った。＜未病から終末まで＞＜病院から在宅へ＞＜病院完結型から地域完結型＞への仕組みづくり＝地域包括ケア体制のための提案である。SNF（Skilled Nursing Facility）をハブ施設とし在宅医療・訪問介護人材を確保することで実現が可能とのことである。そのためには10万人以上の訪問看護師が不足するとの試算から、看護資格を持つ72万人の休眠

看護師を働き手として活かすための施策が必要とのことである。

岩尾氏は、「CBMC (Community Based Medicine & Care) ヘルスケア・イノベーション DR. IWAO モデル」を提唱する。(一)生涯デザイン研究所とアイカ工業で名古屋市前山町で「まち全体で人を見守るまちづくり」に試みつつあるとのことである。いづれにしても、Society 5.0のキーであるAI、IOT、センサー、ロボット、ブロックチェーンなどを上手に活用することが必須である事を学んだ。

小柳

東京ケアウィークに参加できた。これは全国有数の介護や健康に関する展示会であり、同時開催の「超高齢社会のまちづくり展」で最新技術を活用した見守り、移動型診断室などを視察できた。またセミナーでは、2つ受講でき、黒部市のような中山間地で実践できるモビリティイノベーションについて、多世代による協働をどのように仕掛けていくのかについて学ぶことが出来た。今後、高齢者数、高齢者の割合が増大していく中で、社会の中で共生することの大切さや、考え方について噛み砕くことができた展示会とセミナーであった。

中村

Society 5.0時代の地域医療のパラダイムシフト～その構築のためのビジネスモデル、テクノロジー教育とは？～

京都大学経営管理大学院 特命教授 岩尾聡士

Society 5.0時代とは、先端技術を社会生活に取り入れ、経済発展と社会的課題を両立させる。医療介護ではロボットによる最適な医療提供できる社会を目指すことである。

今後の地域医療については地域包括ケア体制の構築が望まれるとのこと、黒部市でも体制が組織されており、共感を持って聞いた。街全体で高齢者、障害者を見守る仕組み、ハブとなる施設や医療介護看護の連携などの説明があった。

今後の展開について企業と自治体との協働や新型サービスの創出と海外への輸出等スケールの大きな話であった。

各世代による協働・共生を実現してきた国内外の地域事例

～超高齢化社会のまちづくりの土壌となるものは何か？～

神戸芸術工科大学教授・東京大学名誉教授 西村幸夫

わが国の少子高齢化の現状から地域の各世代の役割が貧困化している。かつて地域で育った協働・共生の習慣は長年培われた地域の文化を伝承することであり、祭りも大切な地域の行事であった。

山深い農村でも伝承される祭礼を通して村人の助け合いを自覚し、高齢者から子供まで各世代の役割を自覚し、存続している。

まちづくりの担い手は、住民一人ひとりの役割と述べられ、各地で存続する祭りの紹介もあり、改めて地域のまちづくりの意気込みと人のつながりを実感させられた。

柳田

昨年に引き続き、「超高齢社会のまちづくり展」に参加した。本年の専門セミナーは、超高齢社会のまちづくりコースの内、前述の「モビリティイノベーションと自治体との取組」と「多世代による協働・共生」、在宅医療コースでは、

「Society5.0時代の地域医療」を受講した。「モビリティ」では、講義終了後、長野県伊那市が実施する取組実例ブースを視察し、伊那市・トヨタ・NTTドコモの3者で開発した車両でその機能・内容等を聞いた。「多世代」では、本県の立山黒部世界ブランド化推進会議の座長を務める西村幸夫氏の祭りが持つ地域での役割の大切さや真の協働・共生の国内外の地域事例等が示された。また、「Society5.0時代の地域医療」では、まち全体で高齢者・障がい者を見守る仕組みの創出やハブとなる施設や医療・介護の連携の重要性等が愛知県の実践例を含め示された。

本年も貴重な講義が聞け、改めて本市の実践・創出に向け勉強したい。

調査研究活動記録票

会派名 自民クラブ

活動名	東京 宇奈月会 参加		使途 項目	調査研究費
日 程	令和元年6月1日 (土曜)			
場 所 等	東京都 港区 芝パークホテル			
参加議員 人数・氏名	1人	小柳 勇人		
目的・ 内容・ 成果	目的 東京宇奈月会 (郷里会) へ参加し、黒部市の現状を報告すること。また、郷里会の方々へふるさと納税や郷土への支援をお願いすること。郷里会の皆様と親睦を深め、意見交換をすること			
	内容 令和元年6月1日 芝パークホテルにて開催された「東京宇奈月会総会」へ参加すること 詳細は別紙の案内状参照			
	成果 東京宇奈月会は、会長が橋本氏から澤田新会長へ交替した。また、役員も若返りを図られた。郷里会自体の参加は、高齢者層が多いなか、現役世代との交流が推進することが期待できる。黒部市としては、郷里会の方々を関係人口として継続して関わって頂くような取り組み強化が必要だと感じた。			

参考様式第2号

経費内訳

単位：円

整理 番号	月日	支 出 内 容	金 額
3-1	5/28	交通費 黒部宇奈月温泉～東京 往復	23,720 円
	合計		23,720 円 /

2019年4月吉日

東京宇奈月会
会長 橋本 博司

東京宇奈月会総会のご案内

拝啓 春陽の候、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は私ども東京宇奈月会の運営に対し、ご理解とご協力を賜わり厚くお礼申し上げます。お陰様をもちまして、本年も東京宇奈月会の定例総会を下記のとおり開催するはこびとなりました。

当日は、ご来賓の皆様方から故郷の様子を拝聴できるものと、会員一同心よりお待ちしております。申し上げます。

公私にご多忙のところ恐縮ではございますが、ご来臨の栄を賜わりたく、謹んでご案内申し上げます。

敬具

記

- | | | |
|------------|---|--|
| 1. 日 | 時 | 2019年6月1日(土) |
| | | 午前11時より開会(受付開始:午前10時30分より) |
| 2. 場 | 所 | 芝パークホテル 別館2階 『ローズ』
東京都港区芝公園1丁目5番地10号
電話 03-3433-4141 |
| 3. 交 | 通 | 都営地下鉄三田線・御成門駅A2出口 徒歩2分
都営地下鉄浅草線・大門駅A6出口 徒歩4分
都営地下鉄大江戸線・大門駅A6出口 徒歩4分
JR・モノレール浜松町駅北口 徒歩8分 |
| 4. お問い合わせ先 | | 株式会社ケイミックス 総務部 XXXXXXXXXX
電話 03(3566)3700 |

準備の都合上、お手数ですが、4月22日(月)までにご出欠のご連絡をお願い致します。当日のお越しを心よりお待ちしております。

以上

2019年6月1日

第40回 東京宇奈月会総会次第

第1部 定例総会

	(司会)理事	朝倉 邦友
1. 開会宣言	副会長	中本 剛司
2. 物故者への黙祷		司 会
3. 会長挨拶	会長	橋本 博司
4. ご来賓のご紹介		司 会
5. 2018年度行事報告並びに会計報告 2019年度行事計画並びに予算案	理事	高倉 保隆
6. 2018年度会計監査報告	会計監事	佐々木 甚次
7. 2018年度年度決算並びに2019年度予算審議		司 会
8. 役員改選について		会長
9. 新会長より挨拶		澤田 大笹
10. ご来賓祝辞	黒部市市長 富山県議会議員 黒部市議会議員	大野 久芳 様 川上 浩 様 小柳 勇人 様
11. ふるさとだより ・ふるさと黒部サポート寄付 ・黒部市からのご案内	黒部市 総務企画部 企画政策課	中井 英恵 様

(集合写真 撮影)

第2部 懇親会

	(司会)理事	朝倉 邦友
	(司会)理事	新地 里香
1. 乾 杯	一般社団法人黒部・宇奈月温泉観光局 理事 宇奈月温泉自治振興会 会長	河田 稔 様
2. 懇 談		
3. お土産品のじゃんけん大会	(司会)理事	高倉 保隆
4. 越中おわら節		
5. 手締め	副会長	中野 健一

ご 来 賓 紹 介

黒部市 黒部市市長	大野 久芳 (おおの ひさよし) 様
富山県議会 議会議員	川上 浩 (かわかみ ひろし) 様
黒部市議会 議 員	小柳 勇人 (こやなぎ はやと) 様
東京富山県人会連合会 常 務 理 事	東 豊昭 (あずま とよあき) 様
東京黒部会 会 長	平井 良憲 (ひらい よしのり) 様
株式会社富山県人社	釜本 勝 (かまもと まさる) 様
宇奈月温泉旅館協同組合 理 事 長	濱田 政利 (はまだ まさとし) 様
一般社団法人黒部・宇奈月温泉観光局 宇奈月温泉自治振興会 会 長	河田 稔 (かわた みのる) 様
内山自治振興会 会 長	竹山 繁夫 (たけやま しげお) 様
浦山自治振興会 会 長	澤田 正 (さわだ ただし) 様
下立自治振興会 会 長	此川 宣彦 (このかわ のぶひこ) 様
宇奈月ロータリークラブ 会 長	古川 和幸 (ふるかわ かずゆき) 様
黒部市 総務企画部 企画政策課	中井 英恵 (なかい はなえ) 様

参考様式第2号

調査研究活動記録票

会派名 自民クラブ

活動名	東京黒部会総会参加	使途 項目	・調査研究費 ・研修費
日程	令和元年5月12日(日)		
場所等	東京都港区海岸1-11-2 アジュール竹芝		
参加議員 人数・氏名	1人	柳田 守	
目的・ 内容・ 成果	目的 本市郷里会最大組織である「東京黒部会」の総会に参加し、会員の皆様と親睦を図り、本市の活性化に資することを目的とする。		
	内容 別紙案内状および次第書のとおり		
	成果 別紙次第のとおり、来賓として紹介され、黒部会役員及び会員と意見交換した。また、間宮内閣府審議官(S38年生まれ・三日市小学校在籍)の講演をお聞きし、地方創生第2段の国の指針等について教示を受けた。		

参考様式第2号

経費内訳

単位：円

整理 番号	月日	支 出 内 容	金 額
5-1	5/12	交通費 黒部宇奈月温泉～東京 往復	18,000円
	合計		18,000円 /

市会議員 様

平成 2019 年 3 月 吉日
東京黒部会 会長 平井 良憲

第 27 回総会並びに懇親会開催ご招待

謹 啓

早春の候 貴台には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
恒例の黒部会総会および懇親会を下記により開催する運びとなりました。
つきましては、公務ご多忙のことと存じますが、是非ご臨席を賜り故郷の近況などお聞かせいただき、会員との親睦を深めていただければ幸いに存じます。

敬 具

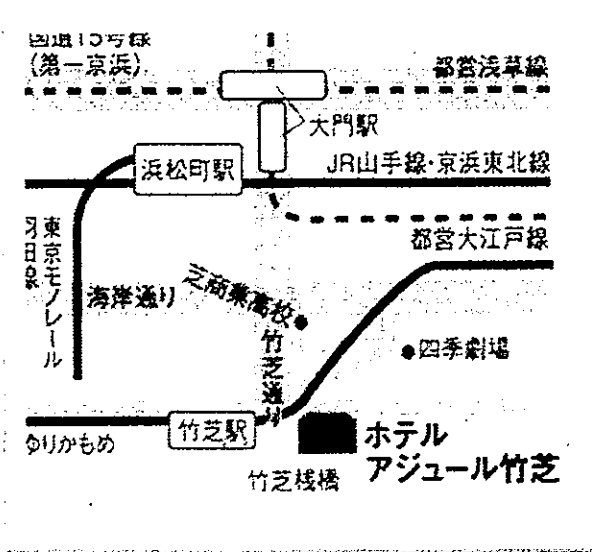
記

- ・ 日 時： 2019年5月12日（日） 12時開始 受付開始11時30分
総会 12時～12時30分
懇親会 12時30分～15時
- ・ 場 所： バイサイドホテル アジュール竹芝
住所：東京都港区海岸1-11-2 電話：03-3437-2011
「JR山手線・京浜東北線「浜松町駅（北口）」徒歩7分
東京臨海新交通ゆりかもめ「竹芝駅」より徒歩1分
- ・ 回答締切： 5月7日（火）までにお願い致します。

141-0031 品川区西五反田 8-3-9 KHビル9F
株式会社プログラムアーキテクト内
東京黒部会事務局

お問い合わせは [redacted] または [redacted] まで
以上

【地 図】



開会	・ ・ ・ ・ ・ 司会	副会長	寺田 潤一
会長あいさつ	・ ・ ・ ・ ・	会長	平井 良憲
来賓ごあいさつ	・ ・ ・ ・ ・	黒部市長	大野 久芳
		黒部市議会副議長	山田 丈二
		富山県人会連合会 専務理事	伊東 靖史
来賓紹介とごあいさつ	・ ・ ・ ・ ・ 司会進行	副会長	寺田 潤一
乾 杯	・ ・ ・ ・ ・	黒部・宇奈月温泉観光局 代表理事	川端 康夫
講演 『最近の文化・観光政策と黒部』	・ ・ ・ 講演者	内閣官房 内閣審議官	間宮 淑夫
～お食事・休憩～			
来賓ごあいさつ	・ ・ ・ ・ ・	富山県首都圏本部 本部長代理	飛世 隆一
郷里出身者の活躍	・ ・ ・ ・ ・	理事	朝倉 邦友
中 締 め	・ ・ ・ ・ ・	名誉会長	稲場 伸也

ご出席予定名簿

【ご来賓】

大野 久芳 (黒部市長)
 山田 丈二 (黒部市議会副議長)
 辻 靖雄 (黒部市議会議員)
 柳田 守 (黒部市議会議員)
 鍋谷 悟 (黒部市議会事務局長)
 中井 英恵 (黒部市長秘書 企画政策課)
 川端 康夫 (黒部・宇奈月温泉観光局 代表理事)
 植木 真人 (黒部商工会議所 副会頭)

飛世 隆一 (富山県首都圏本部 本部長代理)
 島 秀昌 (富山県首都圏本部 本部長補佐)

間宮 淑夫 (内閣官房 内閣審議官)
 松倉 吉弘 (内閣府特命担当大臣宮腰光寛大臣秘書)
 伊東 靖史 (富山県人会連合会 専務理事)
 間部 文紀 (朝日会会長)
 米屋 喜代夫 (生地会会長)

【報道関係】

釣谷 秀樹 (北日本新聞社 東京支社長)
 熊野 直弥 (富山新聞社 東京支社)
 釜本 勝 (富山県人社)

【会員】

別紙

(敬称略)